

外機密

昭和五 五五一六五 (暗)

上海 六月十八日午後  
本省 十八日夜着

東郷外務大臣

堀内總領事

第一二九三號

(重秘) 館長符號扱

(頤慶惠其他南京政府参加ニ關スル件)

本官發南大宛

第二六五號

貴電第二八八號ニ關シ

清水ヨリ

一、褚民誼十六日、<sup>リン</sup>リンコロコロト共ニ頤慶惠ヲ自宅ニ訪問シ、<sup>林森侯</sup>林森侯ノ長老タル貴下カ國民政府ニ參加セラルレハ和平ノ促進ニ一大影

電信寫

2

響アル次第ナルニ付汪主席ニ於テハ貴下ニ院長又ハ國民政府委員等何レニテモ希望ニ沿フヘキ立場ヲ與ヘテ南京ニ迎ヘ度キ意ヲ斷チ居リ旁々健康上ノ關係モアリ折角ノ好意ナレトモ辭退シ度シト答ヘタルニ付然ラハ上海ニ於テ民間外交方面ヲ指導セラルコトハ如何ト述ヘタル處之亦承諾セス褚ハ此ノ上無理ニ押付クルコトハ面白カラスト思惟シ一先ツ話ヲ打切り雜談ニ入りタル處顔ヨリ進ンテ上海教育界ノ問題ヲ持出シ質問セルニ付(顔ハ現在尙「セント、トーンズ、スクール」ノ校董ニシテ教育ニハ相當熱心ナル由)褚ヨリ大體ノ經緯ヲ語リタル後目下有志相諮リ上海ニ於テ大學ノ維持ニ關シ奔走中ナルニ付此ノ方面ノ首腦

S 1.7.0.0 -22

757

S 1.7.0.0 -22

756

REEL No. A-1082

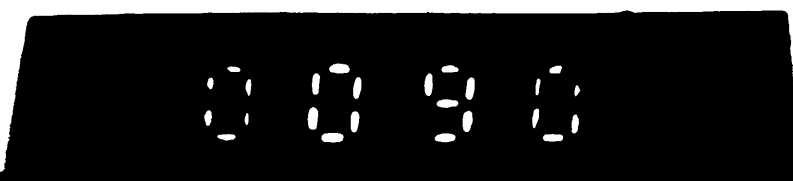
アジア歴史資料センター

外秘

電信寫

者トシテ助力セラシ度シト獎メタル處諸否ヲ明言セス何レも確  
 スヘシト答ヘタルカ其ノ口吻ヨリ察スルニ教育方面ノコトナラ  
 ハ大體引受ケンウナ氣配ナリトノコトナリ  
 ニ、リンボウコラハ現在銀行公會ノ祕書長トシテ公會ニ出勤シ各方  
 面ト接觸シハ風佛海トモ既ニ會見セリ居リ褚民誼來滬後ハ毎  
 日ノ如ク往來シ態度極メテ明朗ナリ然ルニ同人ハ一昨年國民政  
 府ノ發セル主要人通緝令ノ内ニ名前ヲ列シ居ルヲ以テ責<sup>レ</sup>任<sup>ス</sup>重<sup>ク</sup>シ  
 關事兩名ニテ汪行政院長、周同副院長宛同人ヲ通緝令ヨリ削除  
 方請願書ヲ認メタ十七日之ヲ褚民誼ニ託シ請<sup>ハ</sup>然<sup>ル</sup>ヘク取<sup>成</sup>ス  
 へキ旨約セリ

一、本件ニ關シテハ南京ニ於テ面會<sup>ス</sup>行<sup>ハ</sup>合<sup>ス</sup>濟<sup>ス</sup>ナルコト  
 大臣へ轉電セリ



秘

東亞局長

秘第三三一號

昭和十七年七月十日

昭和十七年七月廿日接

在 杭 州

領事 田 中 繁 三



別紙添付

17.7.24

外務大臣 東 郷 茂 徳 殿

特丁總部浙皖閩贛指揮部成立ニ關スル件

本件ニ關シ當館警察署長ヨリ別紙ノ通報告アリタルニ付此段報告申進ス

本信寫送付先 中支警務部長

在 杭 州 日 本 領 事 館

S 1.7.0.0 -22

759

杭領警高第八〇四號ノ二

昭和十七年七月七日

在 杭 州 領 事 館 警 察 署 長

外務省警部 島 村 常 雄

在 杭 州

領事 田 中 繁 三 殿

特工總部浙皖閩贛指揮部成立ニ關スル件

今次「せ」號作戰ノ結果必然的占領地區ノ擴大ニ伴ヒ敵側ノ特務工作ニ廣節團ニ渡リ活潑ヲ極メ來リ之ニ對應スル爲豫テヨリ上海ゼス  
フイルド路七六號ニ秘密裏ニ設置サレアル國府特務工作隊總部  
ハ浙、皖、閩、贛四省ニ強力ナル特務工作隊ヲ設クル意圖ヲ以テ今

在 杭 州 日 本 領 事 館

S 1.7.0.0 -22

760

般杭州市東街路舊惠蘭中學跡ニ特工總部浙、皖、閩、贛指揮部ヲ設置シ目下活潑ニ運動中ナルカ現在迄ノ準備及組織狀況等左記ノ通りニ付此段報告ス

記

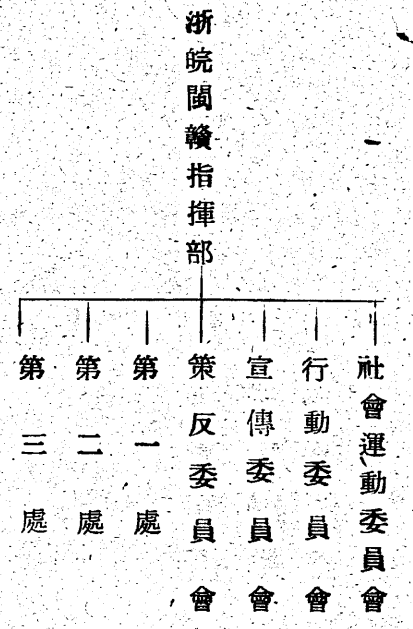
一、人員

各地區ノ特工部ヨリ有能ナル人材ヲ集メ之ニ浙江省黨部、新聞社警察、密偵等ヨリ選拔セル人材ヲ加ヘテ現在約六百名ノ人員アリ七月一日ヨリ各種技術、學識等工作上必要ナル訓練ヲ與フル爲訓練班ニ收容教習ヲ開始セリ

一、組織

最高權ヲ有スル總指揮者一名ヲ置キ之レニ補助指揮者二名ヲ附シ其ノ下ニ三處ヲ設ケ各處長一名ヲ置ク別ニ社會、宣傳、行動、策反ノ四委員會ヲ設置セリ其ノ機構結成左表ノ通り

在杭州日本領事館



一、幹部

當指揮部ノ結成ニ關シテハ主トシテ特工總部主任李士群之ニ當リ組織並ニ人事方面ノ指導ヲ爲シタル趣ナルカ主ナル幹部氏名左ノ通り

- 一、總指揮 傅也文 (特工總部機要處長)
- 一、副指揮 謝文潮 (特工總部杭州區長)
- 一、右 同 陳恭澍 (元重慶側藍衣社上海區長)

在杭州日本領事館

第一處長	蔡	某(未詳)
第一副處長	劉	某(未詳)
第二處長	陳	恭
		澍(兼任)
第三處長	余	介

以上

在杭州日本領事館

S 1.7.0.0-22

763

REEL No. A-1082



田代政行

# 堅決支持印度獨立

## 汪主席接見日記者團談話



汪主席接見日記者團談話

汪主席接見日記者團談話，中國共產黨勢力即已急遽弱，各領袖在此種壓迫下，固面，更有軍大關係，故當其時，汪主席曾就日記者所化，今日情勢則因大東亞戰爭勝利之漸漸擴大，故相之聲明，及東亞各民族，亞視念相一致，以其愛國精神，雖中國在目前，担負新時代之使命，此即所以有國民運動之推行，對此向未顯有何等積極的支，新國民運動將予國民以新持力量，然其方針決不有，的精神力，尤其在青年方，絲毫動搖，印度獨立運動，使青年之愛國心與愛國東

汪主席接見日記者團談話，中國共產黨勢力即已急遽弱，各領袖在此種壓迫下，固面，更有軍大關係，故當其時，汪主席曾就日記者所化，今日情勢則因大東亞戰爭勝利之漸漸擴大，故相之聲明，及東亞各民族，亞視念相一致，以其愛國精神，雖中國在目前，担負新時代之使命，此即所以有國民運動之推行，對此向未顯有何等積極的支，新國民運動將予國民以新持力量，然其方針決不有，的精神力，尤其在青年方，絲毫動搖，印度獨立運動，使青年之愛國心與愛國東

汪主席接見日記者團談話，中國共產黨勢力即已急遽弱，各領袖在此種壓迫下，固面，更有軍大關係，故當其時，汪主席曾就日記者所化，今日情勢則因大東亞戰爭勝利之漸漸擴大，故相之聲明，及東亞各民族，亞視念相一致，以其愛國精神，雖中國在目前，担負新時代之使命，此即所以有國民運動之推行，對此向未顯有何等積極的支，新國民運動將予國民以新持力量，然其方針決不有，的精神力，尤其在青年方，絲毫動搖，印度獨立運動，使青年之愛國心與愛國東

昭和十七年八月十二日



外機密

要再圖

電信寫

昭和17 五六八〇九 (暗)

南京 八月十七日午後發  
本省 十七日夜着

東郷外務大臣

重光大使

第一一三一號 (至急、極秘)

(反英運動ニ關スル件)

來ル二十九日ハ南京條約締結濟百年記念日ニ當リ支那側ニ於テハ此ノ機會ニ反英運動ヲ展開スル意嚮ヲ有シ居ル處場合ニ依リテハ同條約破棄ヲモ爲シ度キ模様ニテ内々當方ノ意見ヲ求メ來レリ當方トシテハ斯ル空氣ヲ醸成スルコトハ支那側ヲシテ大東亞戰爭協力ニ關スル熱意ト希望トヲ持タシムル上ニ資スル所鮮カラサルモ同條約ノ破棄ヲ宣言スルコトハ將來ノ影響ヲ考慮シ差控フルコト

適當ナリトモ思考シ居ル處右ニ關シ何分ノ饒至急御回電相煩度シ  
尙大本營陸軍部ヨリハ之ヲ反英運動ニ利用方總軍ニ指示アリ近ク當方ヨリ宣傳具體案ヲ作成關係方面ト聯絡ノ上具申スルコトト致度シ  
北大、上海へ轉電セリ

S 1.7.0.0 -22

766

S 1.7.0.0 -22

765

REEL No. A-1082

アジア歴史資料センター

外機密

昭和17 五六八〇九 (暗) 南京 八月十七日後發 本省 十七日夜着 重光大使

東郷外務大臣

第一一三一號 (至急、秘密)

(反英運動ニ關スル件)

來ル二十九日ハ南京條約締結濟百年記念日ニ當リ支那側ニ於テハ此ノ機會ニ反英運動ヲ展開スル意嚮ヲ有シ居ル處場合ニ依リテハ同條約破棄ヲモ爲シ度ヤ模様ニテ内々當方ノ意見ヲ求メ來レリ當方トシテハ斯ル空氣ヲ醸成スルコトハ支那側ヲシテ大東亞戰爭協力ニ關スル熱意ト希望トヲ持タシムル上ニ資スル所鮮カラサルモ同條約ノ破棄ヲ宣言スルコトハ將來ノ影響ヲ考慮シ差控マレルコト

電信寫

適當ナリトモ思考シ居ル處右ニ關シ何分ノ傳至急御同電相續度シ尙大本營陸軍部ヨリハ之ヲ反英運動ニ利用方總軍ニ指示アリ近ク當方ヨリ宣傳具體案ヲ作成關係方面ト聯絡ノ上具申スルコトト致度シ  
北大、上海へ轉電セリ

S 1.7.0.0-22

768

S 1.7.0.0-22

767

行

REEL No. A-1082

0096

アジア歴史資料センター



秘

電信寫

昭和17 五六八八一 略

南京 八月十九日發  
本省 十九日發着

亞、弘

東郷外務大臣

重光大使

第一一四五號

(英國驟減週間行事ニ關スル件)

本月二十三日ヨリ二十九日迄ヲ南京條約一〇〇週年紀念英國驟減週間トシ各種反英運動ヲ展開セシムルニ決定セルカ同週間中特別放送トシテ毎日時事解説ヲナサシムル外二十五日郭宣傳部次長ニ十六日在上海印度人代表二十七日褚外交部長二十八日林宣傳部長二十九日汪主席ノ各特別講演ヲ放送シ二十九日ハ中國民衆大會ヲ開催(汪主席モ出席ノ豫定)スル方針ナリ追テ印度獨立運動ニ對

スル聲援モ本件英國驟減週間ノ行事中ニ繰込ム豫定ナリ  
北大、上海、漢口、廣東へ專電セリ

予は存じし(予を存じぬる用ニヤ)

S 17.0.0-22

770

S 17.0.0-22

769

REEL No. A-1082

極秘

大臣

次官

條約局長

れ

東亞局長

國民政府ノ英清南京條約破棄ニ關スル件

(昭和十七、八、十九 外務省)

來ル八月二十九日ノ英清南京條約調印百周年ヲ期シ國民政府ニ於テハ場合ニ依リテハ右條約ヲ破棄シ度キ意嚮ニテ非公式ニ我方出先機關ノ意嚮ヲ照會シ來レル趣ノ處本件ニ關スル一應ノ見解左ノ如シ

判決

此ノ際國民政府ヲシテ英清南京條約ヲ一方的ニ廢棄ヤシムルハ適當ナラスト認ム

理由

一 廢棄ヲ可トスル積極的理由ナキコト

(一) 本條約ノ要點ハ(1) 廣東、福州、廈門、寧波及上海ノ五港ヲ

外務省

(H 本標準規格 JIS) 1.7.0.0-22 771

17. 8. 19

開港スヘキコト(2) 支那トノ貿易カ政府ノ指定ヤル官商ヲ通

シテノミ行ハレタル從來ノ慣行ヲ改メタルコト(3) 香港 割讓

及(4) 正規ノ關稅ヲ支拂ヒテ輸入ヤラレタル外國貨物ニ對シ

以後一切ノ稅金ヲ附課ヤサルコト(釐金廢止) 等ナル處此

等ノ點ハ本條約ヲ廢棄スルモ現狀ニ於テハ殆ト影響ナシト

謂フコトヲ得ヘシ從テ國際法上一般ニ認メラレ居ル情勢ノ

重大ナル變更ニ因ル條約ノ一方的廢棄ヲ主張スヘキ根據ハ

存ヤサルモノト謂ハサルヲ得ス

(二) 結局本條約ヲ廢棄スルコトノ效果ハ英國ノ東亞侵略ノ第一

歩タル本條約ノ廢棄ヲ宣言スルコトニ依リ心理的ニ快感ヲ

感スルト云フ點ニ存スルモノト認メラル處一方右ハ客觀

外務省

(H 本標準規格 JIS) 1.7.0.0-22 772

REEL No. A-1082

0098

アジア歴史資料センター

的妥當性存ヤサル場合ニ於テモ當事國一方ノ感情ノミニ依  
リ條約ヲ廢棄スルコトニ對シ我方カ同意ヲ與ヘタリトノ先  
例ヲ作ルモノニシテ將來國民政府指導上却テ支障ヲ生スル  
惧アルヘシ

ニ香港回收論ニ政治的論據ヲ與フルコトトナルコト

清國ノ英國ニ對スル香港割讓ハ完成ヤル事實ニシテ本條約ノ  
一方的廢棄ニ依リ其ノ效果ニ影響ナキハ勿論ナルモ我方カ國  
民政府ノ本條約廢棄ニ同意ヲ表スルコトハ香港カ英國ニ割讓  
ヤラルヘカラサリシコトノ妥當性ヲ容認ヤルコトトナリ從テ  
香港ノ歸屬問題ニ關シ支那側ニ對シ日本ハ香港カ當初ヨリ支  
那側ニ屬スヘカリシモノナルコトヲ實質的ニ承認ヤルニアラ

外務省

(日本標準規格 B 1.7.0.0-22) 773

スヤトノ論據ヲ與フルコトトナルヘシ

ニ敵側宣傳ニ利用ヤラレ得ルコト

右ニノ點ハ米英側ニ對シ日本ハ國民政府ヲシテ南京條約ヲ廢  
棄ヤシメタル以上直チニ香港ヲ支那ニ返還スヘキナリ宣傳材  
料ヲ與フルコトトナルヘシ

四 盟邦ニ對シ疑心ヲ生ヤシムルコト

本條約廢棄ハ英國ノ東亞侵略ノ記念塔ヲ抹殺ヤリトノ精神的  
效果ハアルヘキモ同種ノ條約トシテ米英兩國トノ間ニ締結ヤ  
ラレタル諸條約ハ別トスルモ尙一八四四年ノ佛清黃浦條約以  
下ノ諸條約アリ同盟諸國及中立國ニ對シ日本ハ國民政府ヲ使  
曠シテ結局支那ヨリ總テノ歐米勢力排撃ヲ企圖シ居ルニアラ

外務省

(日本標準規格 B 1.7.0.0-22) 774

REEL No. A-1082

アジア歴史資料センター

スヤトノ疑念ヲ生ヤシムル惧アリ

外務省

（日本標準規格B5） S 1.7.0.0-22 775

REEL No. A-1082



大 次

條約局長

電 報

(分類)

電 信 案	陸海軍下元打合也情	南京條約ノ破棄宣言ハ差控フルコト、也ラレ、後	貴電カ一三三ノ号ニ関シ	電送第 28216 號	主管 東亞局長
				暗 17.8.20 時15分發	主任 本
外 務 省	陸海軍下元打合也情	南京條約ノ破棄宣言ハ差控フルコト、也ラレ、後	貴電カ一三三ノ号ニ関シ	件 名	宛
				及英運郵ニ関スル件	南京 重光大使
外 務 省	陸海軍下元打合也情	南京條約ノ破棄宣言ハ差控フルコト、也ラレ、後	貴電カ一三三ノ号ニ関シ	記録件名	發
				至急極秘	東郷大臣

昭和十七年八月十九日起草

日本標準規格B5) S 1.7.0.0-22 777

大 次

電 報

(分類)

28217

電 信 案	陸海軍下元打合也情	南京條約ノ破棄宣言ハ差控フルコト、也ラレ、後	貴電カ一三三ノ号ニ関シ	電送第 28218 號	主管 東亞局長
				暗 17.8.20 時15分發	主任 東亞局長
外 務 省	陸海軍下元打合也情	南京條約ノ破棄宣言ハ差控フルコト、也ラレ、後	貴電カ一三三ノ号ニ関シ	件 名	宛
				及英運郵ニ関スル件	南京 重光大使
外 務 省	陸海軍下元打合也情	南京條約ノ破棄宣言ハ差控フルコト、也ラレ、後	貴電カ一三三ノ号ニ関シ	記録件名	發
				至急極秘	東郷大臣

昭和十七年八月十九日起草

日本標準規格B5) S 1.7.0.0-22 776

REEL No. A-1082

電  
信  
業

外  
務  
省

北  
上  
海  
へ  
轉  
電  
ヨリ

(日本標準規格B6)

S 1.7.0.0-22

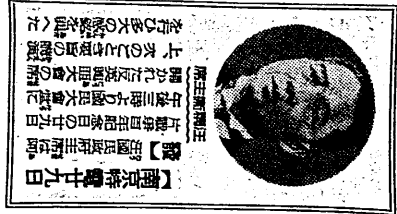
778

REEL No. A-1082



# 日華提携の大道以外 中國復興の途なし

反英興亞大會 汪主席獅子吼



【東京電】九日  
汪主席の演説  
汪主席の演説  
汪主席の演説

汪主席の演説は、日華提携の大道以外に中國復興の途なしと断言した。汪主席は、日華提携の大道以外に中國復興の途なしと断言した。汪主席は、日華提携の大道以外に中國復興の途なしと断言した。

汪主席の演説は、日華提携の大道以外に中國復興の途なしと断言した。汪主席は、日華提携の大道以外に中國復興の途なしと断言した。汪主席は、日華提携の大道以外に中國復興の途なしと断言した。

八月二十日

8 1.7.0.0

779

汪主席の演説は、日華提携の大道以外に中國復興の途なしと断言した。汪主席は、日華提携の大道以外に中國復興の途なしと断言した。汪主席は、日華提携の大道以外に中國復興の途なしと断言した。

汪主席の演説は、日華提携の大道以外に中國復興の途なしと断言した。汪主席は、日華提携の大道以外に中國復興の途なしと断言した。汪主席は、日華提携の大道以外に中國復興の途なしと断言した。

汪主席の演説

日次

- 一、兵務行政本部ノ新設 (米)
- 二、通關破況 (米)
- 三、樞府審査委員會 (米)
- 四、陸海軍事務機構改組 (米)
- 五、汪主席青年ノ青島襲撃 (米)
- 六、王揖唐氏離京 (米)

東 局 長  
 第二課 長  
 第三課 長

子存

780

S 1.7.0.0-22

A 7.0.0.9-5

○海軍テハ大東亞戰爭遂行上軍備ノ大補充、特ニ海空、地上兵隊ノ整備ニ遺憾ナガラシメルタメ陸軍軍政中央機構ニ畫期的ナ大改革ヲ新行、組織ノ簡素強力化、業務ノ迅速實行ヲ圖ルコトナリ十日對百報ヲ以テ海省、陸軍航空本部ノ組織改正並ニ海軍兵務行政本部ノ新設ニ伴フ勅令ヲ公布、十五日ヨリ施行スルコトトナツタ。今回ノ改正ノ要點ハ

一、海軍省兵務局、技術本部ノ職務部、第一課乃至第三課並ニ海軍兵務本部ヲ統合シテ海軍兵務行政本部ヲ新設シタコト

二、海軍航空廠ニアツタ海軍本廠及ヒ航空技術研究所ノ職務部ヲ航空本部ニ統合シタコト

三、海軍省戰術、工務兩課ノ業務ノ一部ヲ兵務行政本部及ヒ航空本部ニ移設シ、兩部ヲシテ強力ナ活動ヲ遂行セシメルコト

四、燃料ノ調達及ヒ燃料工業ノ増進ニ從ヒソレソレ海軍省燃料課ニ於テ一元的ニ強力遂行スルコト

五、四點ニ要約スレバ、海軍ニ於テハ大東亞戰爭勃發以來業務ハ繁忙ヲ

S 1.7.0.0-22

781

倭ノ殊ニ長期戦ニ備スル軍備ノ大擴充ニ備ヘテ學務ノ取裁ヲ辭ケ、  
從來ノ連帶責任ノ弊ヲ廢シテ、單一任務)、單一責任主義ニ改底シ、  
機器ノ合理化ニ邁進スルタメニ今回ノ改正ヲ行ツタモノテ、日下各省  
ニ於テ準備中ノ行政簡素化トハ目ラソノ誤ヲ異ニシテキル。ナホ今回  
ノ改正ハ大正十五年設備局ノ副設及ヒ昭和十一年軍務局ヨリ兵務局ノ  
獨立以來ノ大改革トイフヘク、サキニ今回ハ兵器ノ生産擴充ニ改革ノ  
主力カ注カレタ點カ注目サレル。

S. 1.7.0.0 -22

782

○「南京」支那派遣軍週聞概況(九日發刊)北支魯西地區ノ共產軍討伐  
戰ハ有力幹部多數ヲ含ム敵匪捕獲約四千ノ戰果ヲ收メ該方面ノ敵地盤  
ヲ覆滅シタ。

山東方面ノ敵軍ハ最近ワカ重ノ活潑ナル武力ヲ迫ト嚴重ナル經濟封  
鎖トニヨツテ動向トミニ喪失シ、野田第一師、第二旅、山東保安第  
八旅ソノ他合計一萬五千方カヲ軍用ニ使ハシテ第五次治安  
強化運動展開トトモニ朔朔北支ノ討伐ハイヨイヨ強ク進メラレ  
テキル。

中南支方面ハ戰線概ネ平靜テアルカ故軍ハワカ方今後ノ出方ニ注意ヲ  
拂ツテ頼リニ偵察ヲ試ミツツアル、西北「ルート」ノ確保、津滬工作  
ソノ外中央軍ノ増強、專門工作員ノ派遣、空軍施設ノ研究ナト米國ノ  
支援ヲ益々活潑化シツツアル。

○大東亞省政體オヨビ内外地行政一元化關係ノ諮詢令案ヲ原議スル國務  
院第一關係委員會ハ、九日午後一時半國務府事務所ニ開會、廣府副  
長、鈴木議員以下各委員、政府副ヨリ東條首相ヲハジメ鈴木  
企畫院總、井野兼攝首相、湯澤內相、谷外相、星野書記官長ナラヒ

S. 1.7.0.0 -22

783

ニ森山法相局長官ヲ出席  
マツ更兼首相ヨリ詳細ニワタリ勅令案内容ヲ説明シタリ、石井首相  
委員ヨリ一發論ニツキ質疑アリ、コレニ答シ更兼首相、鈴木金澤  
海軍、谷外相、森山法相局長官ヨリソレソレ答辯アツテ同四時四十  
分散會シタリ。

次同八十二日午前十時ヨリ議ヲ開行スル。

784

S 1.7.0.0 -22

○「附屬購買特權」

國民政府テハ大東亞戰爭勃發以來戰爭元運ニ一躍  
進進シテキル及邦國日本ニ對シ、演進的協力ヲナシツツ就思國軍ノ強  
化ヲ圖ツテキルカ今同更ニ軍事設備ノ根本的改善ヲ斷行スルコトニナ  
リ、近ク軍事委員會ノ強北トコレニ伴フ國府組織系統ノ改正ヲ見ルコ  
トトナツタ、今回ノ改革ノ目的ハ就國體ノ完全獨立ニアリ、軍事委員  
會委員長ノ下ニ陸海軍ヲ一元的ニ收容シテ委員長ノ統帥指揮ヲ明確ニ  
セントスルモノテ、コレカタメ従來行政院ニ屬シテキタ陸軍部及海軍  
軍部ヲ軍事委員會ノ隷下ニ移シ同時ニ武官公署、海軍經理部及公署等  
ヲ新設シテ軍事參議院、航空部、調查統計部等トトモニ陸海空三軍ノ  
並機能ヲ擧ケテ軍事委員會委員長ノ統率下ニオクモノテアル、右ノ改  
革案ハ已ニ八月十三日ノ中央政治委員會議ヲ通過シテアリ近ク政府組  
織改組ト同時ニ實施サレル豫定テアル

○「南京朝日特電」

國民政府汪主席ハ、國民革命軍ノ武漢占領記念日  
ヲ慶祝スル十日ノ双十節ヲ迎ヘルニ當リ、新國民運動ノ同志ニ告ク、  
ト題シテ次ノ紀念論ヲ發表、現下ノ時局カ青年ノ奮起ヲ最も必要トス

785

S 1.7.0.0 -22

ルコト、サラニ中絶ノ以興ト泉源ノ深淵ヲ討究スルタメニハ、男社情  
通ト刻告耐勞ノ精神ヲ必妥トスルヨリ月就シタ  
○「新報同盟」 華北政務委員會委員長王揖唐氏一行ハ四日同ニ且ル訪  
問ノ日程ヲ終リナク、九日午前十時卅分發列早テ離京シタ。

6-1.7.0.0-22

786

REEL No. A-1082